

創作と両立できる薬剤師に

薬剤師になったのは「人と話をするのが好きで、そんな仕事に就きたいと思った。資格が取れて専門性があり、自分がしたいことと両立できそうな仕事として薬剤師が最適だと考えたから」。働きながら彫刻家としても活躍していた祖父の姿がモデルになったという。

卒業後、奈良県などに約60薬局を展開する地元企業の関西メディコに就職。様々な店舗で経験を積み、16年から京終店で管理薬剤師に。同店は二つの診療所に隣接し医師との距離が近い。医師からの相談に応じたり、処方提案したりすることにやりがいを感じている。

同じ敷地内には食品スーパーとドラッグストアがあり、買い物客から広域の処方箋を応需する機

会も多い。患者と接する時には日常生活まで踏み込んで話を聞き、必要に応じて、漢方や薬膳の観点から体質に応じた食事などを説明する。それがきっかけになって話は広がる。「患者さんから聞いてくださることを増やしたい。何か困った時に立ち寄ってもらえるようになりたい」。近年は切り絵作家としても患者に知られるようになり、親しみを感じてもらえているという。



薬局薬剤師の仕事も重視している

絵を版にして染色するスカーフなど、幅を広げる取り組みにも挑戦中だ。金属加工での活用を想定して、携帯端末画面でデジタル的に原画を描くことも試行している。

今年10月29日からは1週間、2回目の個展を大阪市のホテルモントレ ラ・スール大阪で開く。将来はニューヨークでの個展開催が夢だ。「完成図を想像せずに原画を描いている。同じように、これから進む道もどうなるのか分からない。国が変わると切り絵の見方も変わると思う。刺激を受けることで、自分の作品がどう変わっていくのかを楽しんでいきたい」と前を向く。

仕事しているからこそ意欲湧く

社会的な認知度が高まるにつれて「切り絵作家だけに専念しないのか」とも聞かれるが、今後も二刀流を続ける考えだ。「仕事をしているからこそ、切り絵への意欲が湧くこともある。制限を受けずに自由に創作できる」と石賀さん。「薬剤師としての時間、自分のしたいことをする時間、全然別のことに見えても、そこで得た経験はそれぞ

れどこかで生かされる」と語る。

薬学生にも「ある道を選んだためにしたいことができない、と考えるのではなく、自分がしたいことは何であれ1回はやってみてほしい。続けられることがあれば、仕事をしながらでも楽しめる」と呼びかける。

現在、切り絵のペンダントやイヤリング、切り

薬剤効果の価値認識

みなさん、こんにちは。これまで薬の効果について、相対危険減少や絶対危険減少、治療必要数という指標をご紹介し、その中で薬剤効果の曖昧性や不平等性について考察してきました。今回は、薬の効果は絶対的なものではなく、患者さんの立場や状況によって変動し得ることをお話しします。



医療法人徳仁会中野病院薬局 青島 周一

これから「薬」の話をしよう

「薬の効果がある」というと、そんな効果が薬の中に実在するような気もしますが、そうではありません。効果が「ある」とは、意味が「ある」とか、価値が「ある」というような「ある」に近いものです。手のひらに乗せて直接眺めることができる実在物ではなく、その都度、それぞれの人の頭の中で認識されていくものと言えます。

例えば、ここに90%の確率で確実に病気を治す薬があったとします。でも10%の確率で死んでしまう副作用もあ

ります。あなたは風邪をひいたとき、この薬を飲みたいと思いますか？90%は確実に治るけど10%は死んでしまう薬ですから、風邪やインフルエンザくらいでこの薬を飲もうと考える人は少ないと思います。糖尿病だったらどうでしょう？やはり飲まない人の方が多いのではないかと思います。

では、脳卒中で寝たきりになってしまったらどうでしょうか。寝たきりが治るのなら90%に賭けてみたい気もします。末期がんで余命1カ月だったら飲みますか？余命1カ月なら90%という数値は大きな希望となるでしょう。同じ薬剤効果であっても患者さんの置かれている立場や状況によって、その認識は様々であ

ることがお分かりいただけるかと思えます。

薬剤効果の曖昧性や不平等性なんて言う「結局のところ薬の効果をどう解釈すればいいの？」と分からなくなってしまってもいいかもしれません。しかし、ここまで考えてきたように立場や状況によって薬剤効果の認識が変化するのであれば、エビデンスに示された薬剤効果をどう解釈するかという視点ではなく、個々の立場や状況を踏まえてエビデンスをどのように活用するか、ということの方に目を向けるべきなのです。

今回はエビデンスの使い方に関する一つの方法論についてお話ししたいと思います。

やさしい臨床医学テキスト 第4版

【編集代表】星 恵子(聖マリアンナ医科大学客員教授)



“難しいことをやさしく解説”をコンセプトに、様々な疾患の「病気の成り立ち(概念)」から「患者の訴え(症状)」「病状・所見」「臨床監査」「治療」までの一貫した知識を、医療の第一線で活躍する医師を中心にわかりやすくまとめたテキスト。

★Point

患者に安全・適切な薬物療法を提供するために重要とされる「臨床推論」に必要な疾患の基礎知識が身につく

治療法の解説では「薬物療法」に加え、「食事療法」や「非薬物療法」などについても記載

各領域の主要な疾患に加え、実際の医療現場で大事な周辺疾患についても多数収録

詳細はコチラ



B5判 / 556頁 / 定価 4,600円 + 税

◆薬剤師、薬学生、MRなど疾患の基礎知識を身につけたい方におすすめの一冊です。◆薬学部・薬科大学で教科書として多数採用されています。

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<http://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。